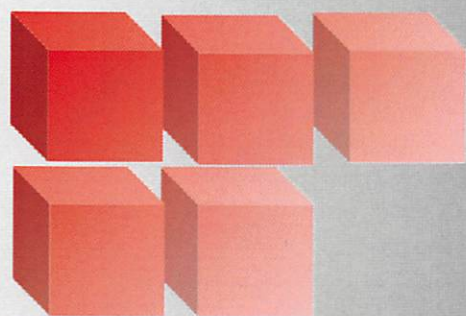


令和元年度「学部教育充実予算」

体育・スポーツの エキスパート育成プログラム

事業報告書



**Sports & Health
Expert program**

- アスリート・コーチ
- アスリートサポート
- 保健体育教員
- 健康運動指導者
- 生涯スポーツ教育者
- キャリア教育



令和元 年度「学部教育充実予算」

体育・スポーツのエキスパート育成プログラム

事業報告書

目次

挨拶	01
プログラムについて	02
アスリート・コーチ育成プログラム	05
海外研修（サッカー部）	08
アスリートサポートプログラム	10
保健体育教員採用試験対策プログラム	11
健康運動指導者試験対策プログラム	13
生涯スポーツ教育実践プログラム	14
キャリア教育プログラム	16
成果一覧	18



スポーツ科学部では、平成 23 年度からスタートした本学企画の「魅力ある学士課程教育支援プログラム」に申請し、2 年間に亘り 820 万円の支援を受けることができました。その内容は、平成 22 年入学生からスタートさせた本学部の新カリキュラムであり、学生が就職等の進路先を視野に入れた科目履修ができるよう方向付けする（コース科目推奨群の設定）とともに、学年が上がるにつれて専門性が高められるよう編成されたものです。そのカリキュラムがこのプログラムに非常にマッチしたものであると考え、「体育・スポーツのエキスパート育成プログラム」と称して申請し、採択され、これまで多くの成果を得ることができました。

平成 25 年度からは「教育推進経費」として 3 年間で 1,174 万円、平成 28 年度からは「暫定的教育予算」として 2 年間で 879 万円の支援を受け、同様のプログラムを実施してきました。平成 30 年度からは「学部教育充実費」として 260 万円に減額されたものの、プログラム内容を縮小して実施してきました。そして、平成 31 年度は 430 万円に増額され、以前と同様なプログラムを実施することができ、プログラムの定着とコース色が色濃く出るような成果に繋がっています。

本プログラムは、「アスリート・コーチ育成プログラム」「アスリートサポートプログラム」「保健体育教員採用試験対策プログラム」「健康運動指導士試験対策プログラム」「生涯スポーツ教育実践プログラム」「キャリア教育プログラム」の 6 つのプログラムで構成されています。スポーツ科学科 4 コースと健康運動科学科 3 コースにマッチングした内容であると同時に、授業（単位）での内容と深く関わり、スポーツ科学部の教育と魅力づくりに中心的な役割を果たすようになってきました。

平成 31 年度は、アスリートとしてのいろいろな活躍、グローバル人材育成にも寄与している海外研修、健康運動実践指導者 6 名と健康運動指導士 10 名の合格、そして保健体育教員の 1 次合格 18 名、最終合格者現役 11 名など、さまざまな成果が現われています。さらに、「キャリア教育プログラム」が実践されている 2 年次生対象の「ステップアップセミナー」の授業においても、ミニッツペーパー等で成果を窺い知ることができます。各プログラムの詳細及び成果等については、各プログラム責任者が報告していますのでご一読ください。

平成 31 年度は、スポーツ科学部（旧体育学部）創設から 50 周年を迎えました。本プログラムの継続が、これまで以上にスポーツ科学部の発展に大きく貢献することを切に願っています。最後になりますが、本プログラムを実践するにあたり、大学のご理解とご支援並びに学部教育に関わる多くの関係者のご尽力によるのであり厚くお礼申し上げます。



スポーツ科学部では、平成 22 年度入学生からカリキュラムの改編スタートに伴い、福岡大学の「魅力ある学士課程教育支援プログラム ー体育・スポーツのエキスパート育成プログラムー」とタイアップしてさまざまなプログラムを実行してきました。このカリキュラムの完成年度（平成 25 年度）に効果を検証した結果、大変大きな効果が認められました。その後、平成 25 年度以降は、「教育推進経費」により本プログラムを継続し、平成 28 年度からは、減額されたものの「暫定的教育予算」によって継続してきました。そして、平成 30 年度からは「学部教育充実予算」として同様のプログラムを実施しました。このプログラムは、現カリキュラムの特徴であるコース制と連携をとるプログラムが多く、教育的な効果も高くなっており、スポーツ科学部の魅力をつくり出す重要なプログラムとなっています。

現カリキュラムは、1 年次生の学生が就職等の進路先も視野に入れた科目履修ができるように方向づけをする（コース推奨科目群の設定）とともに、学年が上がるにつれて専門性が高められるよう編成されたものです。「体育・スポーツのエキスパート育成プログラム」は、本学部の新カリキュラムと非常にマッチしたものであり、これまでの 8 年間で多くの成果を得ることができました。平成 30 年度においても「学部教育充実予算」で申請し、これまでと同様のプログラムを実施しました。それぞれのプログラムでは、コースの特性が色濃く表れ、期待以上の成果が上がりました。

アスリート・コーチ育成プログラムでは、前期開講の「ピークパフォーマンス演習Ⅰ」の中で 4 回、オープンキャンパス時の特別講義に 1 回の計 5 回、特別講師を招いて講義をしていただきました。講義への参加は、授業登録者だけでなく講師に関連する種目・職種の学生なども含めて多くの学生が受講しました。後期には、3 年次生対象の「ピークパフォーマンス演習Ⅱ」の単位とも連動させていますが、本年度は履修者がいませんでした。そのため本プログラム対象からの希望者としてサッカー部の学生 4 名がスペインへ海外研修に行き多くの成果を得て帰ってきました。また、研修を終えた学生は、現役学生たちへのフィードバックのためやプログラム周知のために、新入生懇談会の中で活動報告を行っています。

アスリートサポートプログラムのコーチ学ゲーム分析サポートでは、NTTドコモレッドハリケーンズ所属・2019 ラグビーワールドカップ日本代表アナリストの戸田尊氏でありました。講習会には、100 名を超す参加者が集まり、日本中を感動の渦に巻き込んだ W 杯日本代表のベスト 8 までの勝ち進んでいくためのストラテジー構築法など貴重な情報を得ることができたと思います。

トレーナーサポートでは、第二記念会堂内のトレーニング室だけでなく、総合体育館内のトレーナールームも活用し、福岡大学の運動部の学生に対して、テーピングやストレッチング、マッサージといったメディカルサポートを行いました。また、今後は総合体育館内のトレーナールームと第二記念会堂内の診療室も含めた、メディカルサポートシステムの構築が形となり始めています。

保健体育体教員採用試験対策プログラムでは、4年次生の保健体育教員コースの学生35名が「保健体育教職演習Ⅱ」を受講し、3年次生の同コースの学生19名が「保健体育教職演習Ⅰ」を受講しました。4月～7月にかけて1次試験対策講座および実技練習会を実施し、合格者には、集団討論練習会などの2次試験対策講座を行いました。その結果、のべ18名が1次試験を合格しました。そのうち2次試験合格者は11名(科目等履修生を含む)で、保健体育教員コースの合格率は、昨年(8.3%)から、17.1%(6名/35名)となりました。この他、2019年教員採用試験対策報告書の作成およびデータベース化を行っています。

健康運動指導士試験対策プログラムでは、4年次生の健康運動指導者コースの学生を対象に、健康運動指導士の試験対策の「健康運動指導演習Ⅱ」を通年の集中授業で行い、10名(11名受験)の学生が合格し、71.0%の合格率でした。後期に3年次生の健康運動指導者コースの学生を対象に、「健康運動指導演習Ⅰ」の授業の中で、実技試験対策講座講(外部の講師)と筆記試験対策を実施し、健康運動実践指導者試験に6名(10名受験)の学生が合格し、58.1%の合格率となりました。

生涯スポーツ教育実践プログラムでは、高野千春氏(平成国際大学スポーツ健康学部准教授)を招聘して講演を開催しました。講演は、人との繋がりや自然が持つ力など高野氏の多彩な実践活動が紹介され、学生たちにとっては、とても視野が広がる体験でした。また、新たな取り組みとして、6名の学生がSport Policy for Japan 2019にて、大学生による日本のスポーツ政策についての研究成果プレゼンテーションを行い、非常に貴重な体験を重ねています。

キャリア教育プログラムでは、これまで同様2年次生を対象にした「ステップアップセミナー」において、外部講師(消防士や青年海外協力隊経験者など)およびスポーツ科学部の学生(JICAとのボランティア連携事業経験者、企業内定取得者など)を招いてキャリア教育を行いました。学生は、スポーツに関連する職業の講師や学部卒業の現役高校教員の講義には、真剣な態度で受講しており、2年次から就職に対する意識づけが高まったと考えられます。

最後になりましたが、本プログラムを長い期間継続できたのは、大学のご理解ならびにご支援と学部教育にかかわる多くの関係者の方々のおかげでございます。皆様方に感謝するとともに厚くお礼申し上げます。スポーツ科学部の教育的効果は高く、学部の魅力づくりに大きく貢献しております。これからも、より一層の内容充実を図るべく精進いたす所存ですので、ますますのご支援を賜りますようお願いいたします。

プログラムスタッフ

◇統括 米沢利広

◇アスリート・コーチ育成プログラム

乾 眞寛 米沢利広 片峯隆 村上純 田口晴康
柿本真弓 小牟礼育夫 田場昭一郎 坂本道人

◇保健体育教員採用試験対策プログラム

柿山哲治 梅田保人 今村律子

◇生涯スポーツ教育実践プログラム

築山泰典 藤井雅人 霜島広樹

◇会計 吉武行寛

◇コーディネーター 今村律子

◇アスリートサポートプログラム

布目寛幸 川中健太郎 下園博信 西田智
田村雄志

◇健康運動指導者試験対策プログラム

道下竜馬 山口幸生 川中健太郎

◇キャリア教育プログラム

坂本道人 野口安忠 柿本真弓

プログラム概要

目標と特色

スポーツ科学部では、平成 22 年度からスタートしたカリキュラムに向けて様々なプログラムを準備して実践してきた。現カリキュラムは、学生が就職等の進路先も視野に入れた科目履修ができるように方向付けをする(コース推奨科目群の設定)とともに、学年が上がるにつれて専門性が高められるよう編成されたものである。アスリート・コーチコースでは、平成 20 年度から 3 年間継続した「トップアスリート強化・支援のための実践プログラム」を一部継続しながら、全国大会上位入賞者および団体(チーム)のさらなる増加を、保健体育教員コースでは、3 年次からの人数制限科目の設定等により、教員採用試験の現役合格者あるいは卒業後早期合格者の増加を、健康運動指導者コースでも 3 年次からの専門家養成教育に重点を置くことにより、健康運動実践指導者および健康運動指導士の合格者の増加を、そしてトレーナーコースと生涯スポーツ教育コースでは、アスティックトレーナーやトレーニング指導者、野外教育・レクリエーション指導者などのエキスパート育成を目指している。

アスリート・コーチコースの学生には、国内外で活躍する指導者や選手を招聘し、継続的な動機づけと明確な目標設定を行わせ、より高度な競技レベルへのチャレンジ精神と自発的に学ぶ姿勢を身につけさせる。さらに、国内外での研修を奨励し、国際的視野で活躍する人材を育成する。また、アスリートサポートプログラムでは、栄養サポート、メンタルサポート、フィジカル&バイオメカニクスサポートなどにより、サポートのエキスパート育成が期待できる。保健体育教員コースの学生には、教員採用試験突破に向けた講習会と勉強会を、健康運動指導者コースの学生には、健康運動実践指導者および健康運動指導士の試験合格に向けた講習会と勉強会を設定することで、意欲ある学生への支援が可能となる。トレーナーコースや生涯スポーツ教育コースの学生には、実践教育の場を供給できる点で効果が期待できる。また、2 年次生の開講科目「ステップアップセミナー」では、職業意識を高めるために、様々な職種の講師を招聘している。

主な内容

◇アスリート・コーチ育成プログラム

ピークパフォーマンス演習にて、5 回のセミナー開催、国内外研修

◇アスリートサポートプログラム

トレーナーサポートは常時コンディショニングルームで対応、定期的な勉強会の開催、フィジカル&バイオメカニクスサポートは外部講師を招聘して講演の開催

◇保健体育教員採用試験対策プログラム

保健体育教職演習 I・II、実技試験対策、面接試験対策および 2 次試験対策を開催

◇健康運動指導士対策プログラム

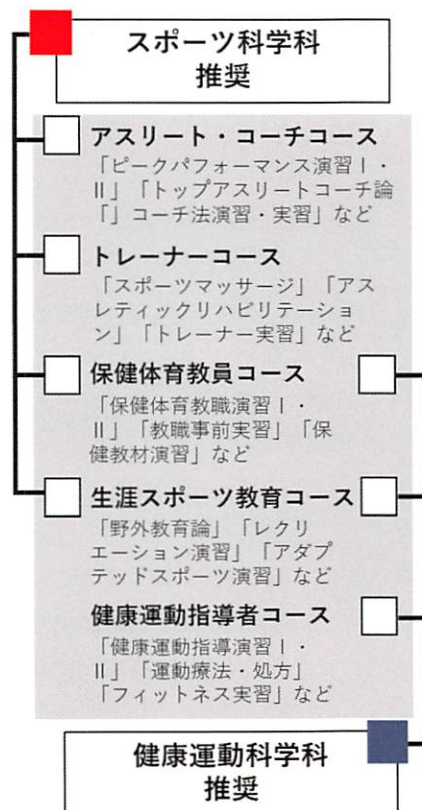
健康運動指導演習 I・II、外部講師による実技と講義の開催

◇生涯スポーツ教育実践プログラム

講師を招聘して講演の開催

◇キャリア教育プログラム

外部講師およびスポーツ科学部の学生を招聘してキャリア教育を実施



アスリート・コーチ育成プログラム

担当責任者 乾 眞寛

Sports & Health
Expert program

2011年度から始まった「体育・スポーツのエキスパートの育成プログラム」は、9年目を終えた。2008年度に開始した「トップアスリート強化支援のための実践教育プログラム」3ヶ年を合わせると、計12年間継続されてきたことになる。

プログラム当初の目標は、競技面での実績を高めることであり、世界的スケールで活躍する一流アスリートやコーチを本学にお招きし、その貴重な経験談を定期的に聞ける場を現役学部生に提供することであった。そして、日本トップレベルを目指す志の高い学生を海外研修に派遣し、九州内や国内では経験できない環境に身を置くことで、高いモチベーションや挑戦する心を刺激することであった。

この継続した取り組みの成果により、日本国内のトップレベルで活躍する福大生アスリートの数は、年々飛躍的に増加し、全国ベスト8以上の入賞者または国体、チームは、プログラム開始前に比べて格段に増えている。本年度は、女子バレーボール部が全日本インカレ準優勝という好成績を挙げた。

2年次生に開講された「ピークパフォーマンス演習Ⅰ」では、授業内に計4回、オープンキャンパス特別講義に1回の計5回、外部講師をお招きし、トップアスリートから直接に経験談や苦労話、失敗談をお聞きする機会を設けている。来学して頂いた5名の著名なトップアスリートの方々からは、壁に挑み、突破するためのヒントや取り組み方などを熱心にご教授いただきました。学生たちの関心度も強く、講義への出席状況も良好で、授業後に提出するミニッツペーパーの感想文からも学生各自の心に大きく響くものがあったことがわかる。

3年次開講の「ピークパフォーマンス演習Ⅱ」では、年々海外研修や国内研修を希望する学生が増加してきており、本年度もサッカー部から4名がスペイン・プロサッカーチームへの研修に参加した。学生たちは、国内に留まらず海外へも挑戦の場を広げている。その成果は、帰国後に現役学生たちへとフィードバックされ、ハイレベルな環境で実践的なトレーニングを経験することが、いかに人を成長させるか？ということをもつて実証してくれている。

研修を終えた学生は、帰国後のチームの主力選手として活躍するだけでなく、卒業後には、プロスポーツ、実業団リーグ、全日本選手権など、活躍のステージを上げ、スケールアップした姿を見せてくれている。

これからも「九州の雄」にあまんじることなく、目標水準を高く保ち、グローバルなスケールで活躍できる人間性豊かなトップアスリートを育成することが、本プログラムの使命であると考えている。

プログラムを実施するにあたり、ご支援、ご協力いただいたミズノ株式会社様、その他の皆様に、心より御礼申し上げます。「福岡発、日本一経由、2020東京五輪、世界行!!」これからも、福大生アスリートの更なる活躍に、熱いご声援を宜しくお願い申し上げます。

ゲスト講師

川上 直子氏 元なでしこ JAPAN サッカー選手

小学生からサッカーを始め、中学生から TASAKI ペルーレに所属。2001年女子サッカー日本代表に入り、2003年 FIFA 女子ワールドカップ、そして2004年アテネオリンピックでは右サイドバックとしてベスト8進出に貢献。現在は、サッカー解説者、女子サッカーの普及の為にサッカー教室など指導も行っている。

2001年 第13回アジア女子選手権 (チャイニーズタイペイ) 準優勝

2003年 第14回アジア女子選手権 (タイ) 4位

2003年 第4回 FIFA 女子ワールドカップ (アメリカ)。

2003年 女子サッカーアテネ五輪アジア地区最終予選 (日本)

2004年 アテネオリンピック (ベスト8)

(2019年6月12日開催)



ピークパフォーマンス演習 I セミナー講師紹介

清水 宏保 氏 元スピードスケート選手

幼少の頃からスケートを始め、スピードスケート短距離界で活躍。2010年に現役を引退し、大学院にて医療経営学を学ぶ。現在は、弘前大学大学院社会医学講座にて医学博士取得を目指している。また、札幌市内で株式会社 two.seven の代表取締役を務める傍ら、テレビ出演、講演活動などで活躍中。

1998年 長野オリンピック 500m 金メダル / 1000m 銅メダル

2002年 ソルトレークオリンピック 500m 銀メダル

ワールドカップ通算優勝回数は35回。世界距離別選手権大会500mでは、その当時の世界新記録を樹立。

(2018年6月27日開催)



官野 一彦 氏 ウィルチェアラグビー選手

10代の頃はプロを目指す高校球児で千葉県木更津総合高校野球部でレギュラーメンバーとして活躍。社会人になって始めたサーフィンの事故で頸椎を損傷し車いすでの生活となる。知人の紹介で知ったウィルチェアラグビーに魅了され、すぐに頭角を現した。

2012年 ロンドンパラリンピック 4位

2013年 WWRC 4位

2014年 世界選手権 4位 カナダカップ 3位

2015年 アジアアセアニアゾーン選手権 優勝 best player 受賞

2016年 カナダカップ 3位 / リオデジャネイロパラリンピック 銅メダル

2017年 アジアオセアニアゾーン選手権 2位

2018年 ジャパンパラウィルチェアラグビー競技大会 優勝 / GIO 2018 IWRF Wheelchair Rugby World Championship 金メダル

2019年 Wheelchair Rugby Quad Nations 優勝

(2018年6月27日開催)



赤羽 有紀子 氏 元長距離、マラソン選手

中学生から陸上を始め、真岡女子高等学校を経て、城西大学に入学。1年時より頭角を現す。その後、結婚、出産を経験するも競技を続け、ママランナーとして活躍。引退後は、城西大学女子駅伝部アドバイザー兼コーチとして学生の指導にあたり、現在はスポーツや女子の社会活動に関わる、各種イベントや講演で活躍中。

全日本大学女子駅伝2度優勝(4年連続区間賞) / ユニバーシアードハーフマラソン銀メダル / ユニバーシアード

10000m 銅メダル / 日本インカレ 5000m 優勝 / 日本選手権 10000m 優勝 / 仙台国際ハーフマラソン優勝 / 全日本実業団ハーフマラソン優勝 2回 / 山陽女子ロードレース大会 2連覇 / 北京オリンピック出場

- マラソン成績 -

大阪国際女子マラソン優勝 / 世界選手権出場 / テグ世界陸上では、マラソンで5位入賞 / WMM ロンドン大会で3位入賞 / ゴールドコーストマラソン優勝 WMM ロンドン大会で3位入賞 / ゴールドコーストマラソン優勝

(2018年7月11日開催)



迫田 さおり 氏 元全日本バレーボール選手

2006年に鹿児島西高等学校卒業し、東レアローズに入団。2010年に全日本代表登録メンバーとなり、数々の大会で大活躍。現在は、解説者やバレーボール教室等を通じて、バレーボールの普及活動に貢献。

2006年 東レアローズ入団

2009-10年 シーズンVプレミアリーグよりレギュラーに定着。同シーズンでサーブ賞とベスト6に選出。

2010年 全日本代表登録メンバーになる。同年開催の世界グランプリ・世界選手権に出場。

2011-12年 Vプレミアリーグで2季ぶりのリーグ制覇に貢献。ロンドンオリンピックの代表メンバーに選出。3位決定戦で23得点と大活躍。全日本28年ぶりのメダル獲得に大きく貢献。

2013-14年 Vプレミアリーグ得点王

2016年 リオデジャネイロオリンピック出場等活躍

2017年 現役引退



(2018年8月4日 オープンキャンパス同日開催)

受講生レポート

(川上さんの話より)

目標設定というのは本当に大切だと改めて思いました。目標設定もざっくりした目標より明確な目標を立て、かつそれを達成するための段階をきちんと自分で考えて達成できるようにする、そういう設定を立てることが大事だと思いました。

(清水さんの話より)

「非常識も結果を出せば常識になる」という言葉が心に残りました。「常識」つまりは人と同じことを考えて、同じことをしていても普通の人間、普通の選手にしかたれないのだと思いました。明日死ぬと思う覚悟で一日一日を過ごしていきたいと思います。

(官野さんの話より)

“夢は叶わない。夢を目標に変え、何をするか明確にし、目標達成のための道筋を逆算して考える。意識が変われば行動が変わる。行動が変われば結果が変わる。”という言葉が心に響きました。また、熱い話、ポジティブなことを発することでそのような人が集まってくる。苦しいときこそポジティブなことを発していこうと思います。

(赤羽さんの話より)

笑顔と素直な心を座右の銘にされていて、赤羽さんは笑顔がとても似合う方だなと感じました。その笑顔があったから、色々なことにポジティブに挑戦することができ、多くの結果を残し、22年間も陸上競技を続けてこれなのだなと思いました。自分もつらいときもきついときも笑顔でいられるような選手になりたいと思いました。

(迫田さんの話より)

福大女子バレー部も、たくさん質問もすることができ、とても素晴らしい時間でした。1番驚いたことは、他の競技種目の高校生も本当に楽しそうに話を聞いており、このような話はどんな種目でも共通であると感じました。これから自分が指導の立場になったときに活かしていきたいと感じました。



海外研修レポート（サッカー部）

<実習責任者：乾 真寛>

2019年度（令和元年度）のピークパフォーマンス演習Ⅱにおいて、単位化を目指す海外研修学生は、残念ながら居なかった。その代わりに、3年生の中からサッカー部員4名が名乗りを挙げ、スペイン・バルセロナにあるスペインプロサッカーリーグ4部に当たるFCオルタというクラブで研修する機会を得た。

2週間という期間ではあったが、スペイン特有のサッカー文化、生活文化を直接肌で感じ取り、サッカーの聖地とも呼べるバルセロナFCの本拠地カンプ・ノウスタジアム8万人の大歓声の興奮の中でメッシをはじめとする世界的超スーパースターたちのプレーを生で観ることができた感動と体験は今後の彼らの競技人生を大きく左右する体験になったと思います。大学からの支援とこのような機会を与えて下さった関係者の方々に心より感謝申し上げます。

<スポーツ科学科3年 前野 翔伍>

私たちは、1月8日から21日までスペイン研修に参加させて頂き、多くのことを学んできました。その中でも1番驚いたことは、サッカー環境の違いです。スペインでは、ユース年代で移籍金が発生するなど、日本では考えられない環境が存在していました。世界トップクラスのチームは、若い頃から常に厳しい環境で練習していることを知り、刺激を受けました。現地では、スペインの4部のACオルタという街クラブで練習に参加しました。オルタの選手たちは、仕事とサッカーを両立しながら練習に取り組んでいました。誰一人嫌な顔をせず、意欲的に取り組む姿勢はとても印象的で、みんなサッカーが大好きなんだと感じました。練習の空き時間にはバルセロナの観光地を巡りました。世界遺産であるサクラダ・ファミリアは大きさ、デザイン、美しさ、全てにおいて想像を超えるものでした。

今回スペイン研修に参加できたのは、乾監督をはじめ、サッカー部関係者、スポーツ科学部の皆さんのおかげです。この感謝の気持ちを忘れず、研修で学んだことをサッカー部に多く還元するとともに、自分自身も成長していきます。

<スポーツ科学科3年 梅木 翼>

1月8日～1月21日までスペインのバルセロナに海外研修に行ってきました。スペインでのサッカーは、なかなか経験できないスピード感や、球際の激しさや、攻守両面での切り替えの早さなど多くのことが経験でき、日本との違いを感じることができました。現地では、スペイン4部のFCオルタに練習参加させて頂きました。監督のナチョ氏から相手の裏への動き出しや、タイミングの取り方などFWとして点を取るために必要なことを細かく教えてもらいました。そのために何が必要か改めて考えることができ、自分のプレーを見直すことができました。チーム全体としては一つ一つの精度が高く、チーム内での競争が激しかったです。このようなチームとともにプレーしていて自分も負けたくない気持ちやチーム内で競争することの重要性を感じることができました。今回の海外研修を通して自分の通用する部分とまだまだ成長しなければならない部分が理解でき、サッカーの考え方や、価値観を大きく変えることができました。このような貴重な経験をさせて頂けたことに感謝し、チームの目標達成に向かって頑張ります。

<スポーツ科学科3年 河野 秀太>

1月8日から1月21日までスペイン研修に行ってきました。自分は「サッカー選手として成長し、視野を広げること」を目標にこの研修に臨みました。今回、自分たちはバルセロナを拠点とするスペイン4部のFCオルタというチームに練習参加させて頂きました。そして1996年にFCバルセロナに所属していた経歴を持ち、監督としても結果を出し続けているナチョ監督に指導して頂きました。練習では、週末に対戦する相手を想定したトレーニングや、FCオルタがやりたいこと、狙いがハッキリしたトレーニングで、強度も高かったですが、なによりも選手がそれを理解することを第一にトレーニングしていました。トレーニングに参加してみて初めに感じたのは言葉の壁です。グラウンドに通訳の方が一緒にいてくれて、通訳の方を経由すれば解決するのですが、スピーディーなトレーニングの中でコミュニケーションをとるのは困難でチームに溶け込むのにとっても苦労しましたが、貴重な経験でした。

またキャンプでのFCバルセロナの試合観戦では、メッシやピケなど世界最高峰の選手たちのプレーを生で見ることができました。スーパースターたちの迫力を直で感じる事ができ「すごい！」の連続でした。

今回の研修でスペインという地に身を置き何の評価もないまっさらな状態からサッカー選手として挑戦することの楽しさや、サッカー選手としてだけでなく1人の人間としてコミュニケーションの部分だったり、海外を肌で感じることで成長することができました。これを自チームに持ち帰って、還元し全国ベスト4の壁を超えられるようがんばっていきたいと思います。最後に、このような機会を与えて頂いた関係者の皆様方に感謝申し上げます。ありがとうございました。

<スポーツ科学科3年 井上健太>

私たちは、2週間スペインに研修で行って来ました。スペインという国は、サッカーが歴史的文化として根強く浸透している国です。そのスペインに研修に行き、世界基準で考えた時の自分自身のサッカー選手としてのレベルがどれくらいにあるのか、実際に肌で体感することでわかることができました。

研修では、スペイン4部のオルタFCの練習に参加しました。オルタFCはナチョ氏というスペインでも有名な指導者が指導しているチームでした。練習内容は、スペインならではのパスサッカーを体現するためのポゼッションゲームやロンドというメニューが多かったです。日本でも同じようなメニューをしていたのですが、パスの精度や一つ一つのプレーのこだわりが全く違い、ボールを奪われた後の切り替えや玉際の激しさが日本では味わえない基準でした。また、国籍の違う選手とプレーをするにあたり言葉の壁を感じましたし、プレー中にコミュニケーションがどれだけ大事かも感じる事ができました。

この研修を通し、世界基準のサッカーを見て感じたことやプレーして感じたことを福岡大学サッカー部全体に還元し、これからの部の活動に生かしていきたいと思っています。



令和2年1月14日(火)17時より第二記念会堂1221教室において、アスリートサポートプログラム(コーチ学・ゲーム分析)の講演会を行った。講師は、NTTドコモレッドハリケーンズ所属・2019ラグビーワールドカップ日本代表アナリストの戸田尊氏であった。戸田氏は、平成17年度に本学を卒業、本学大学院スポーツ健康研究科を修了され、ラグビーのアナリストとして活躍されている。2019ラグビーワールドカップ日本大会において、初のベスト8に進出した日本代表チームを陰でささえたアナリストである。今回の講演会は、ラグビーワールドカップのトピック的な話題と、最近の競技現場で重要とされているパフォーマンス分析について『ラグビー日本代表アナリスト、戸田尊氏に聞く「ONE TEAM への軌跡、ラグビー日本代表の戦い!」』と題し、講演していただいた。

当日は他のガイダンス等とスケジュールが重なっていたが、100名を超す参加者であった。参加者は、ラグビー部、女子サッカー部、野球部、バレーボール部などの現役アスリート、アナリスト活動に興味を持っている学生、大学院生、教職員であった。

講演は、戸田氏の分析的な説明に引き込まれるようで、あっと間に時間が過ぎた。特に印象深い話は、やはりラグビー日本代表がベスト8に進出するまでの過程において、計り知れない選手の努力とスタッフの準備があったこと、さらに、大会が始まってからのチーム内の雰囲気であったり、勝ち進んでいくための戦略の構築法であったり、我々が知りえない情報を惜しまず伝えてくださった。「ONE TEAM」になるためには、選手たちは、精神性の部分だけでなく、身体的要素、技術的要素のバランスを取りながら、それぞれをブラッシュアップしていき、スタッフはそれを効果的にサポートしていくことが重要であると理解できた。

受講生レポート

・今日の戸田さんお話を聞いて、なぜ日本代表が勝つことができたのかというところで、どんなチームになりたいのか存在意義がはっきりしていたということが書いてあってこれは自分たちの部活動のチームにも必要だなと思いました。目の前のことに全力で取り組める環境が私の周りにはあるので、取り組んでいけたらいいなと思いました。稲垣選手の話とてもおもしろかったです。

・今回、戸田さんの話を聞いて、RWC2019での日本代表の躍進の陰には選手だけではなく、いろいろな人が関わっていることをもっと知ることができた。また、アナリストとして様々な角度からプレーを見てチームの勝利のためにどれだけサポートできているか、学ぶことができ、アナリストという職業の魅力を知ることができた。チームの勝利のために、分析をもっとしていこうと思った。

・今日、戸田さんの話を聞いてアナリストがどのような職業科を知ることができたし、選手に足してこのようなかわり方もあるのだと分かりました。アナリストがしていることは勝つためにはとても必要だと思うし、準備はとても大切になってくると改めて分かりました。自分の部活でも、相手のチームの分析をしているので、今日の話を活かして、万全な準備をして試合に臨めるようにしていけたらいいなと思いました。

・ラグビーを行うのは自分の力だけでなく、他人の力があってこそ、勝つことができる、まずは、自分たちがどれだけできるかを知り、その後に相手チームがどのような戦い方をするのかをさまざまな試合からデータを取り、自分たちチームがどのような戦い方をするのかをあてはめえるような形をとる。まずは、自分の身の回りから変化などを知ることが必要だ。



保健体育教員採用試験対策プログラム

担当責任者 今村 律子

Sports & Health
Expert program

2019年度の教員採用試験1次合格者は計17名であった。熊本県・佐賀県・福岡県・長崎県小学校に各1名、福岡市中学校に4名、福岡県・広島県・市中学校に各2名、鹿児島県・三重県・兵庫県中学校に各1名、大分県・宮崎県・広島県高等学校に各1名の計18名であった。2次試験合格者は熊本県・佐賀県・福岡県・長崎県小学校に各1名、福岡県中学校に2名、広島県・市中学校に1名、三重県・兵庫県中学校に各1名、宮崎県・広島県・市高等学校に各1名の計10名であった。(1次、2次いずれも科目履修生を含む)したがって、保健体育教員コース35名中6名の合格者(合格率:17.1%)であった。本年度は保健体育教員コースの学生が自主的に実技試験対策講座を早い段階から当学部の先生方に依頼し、陸上競技(梅田教授)、バスケットボール(田方助教)、バレーボール(吉行助手)、柔道(坂本准教授)、ダンス(森本外部講師)の練習を開始した。また、専任の教員で日程が合わない場合は、教員コース担当者管理の元、器械運動、陸上競技を専門種目としている大学院生を指導補助として実施し、実技練習会を半年間に渡って実施した。さらに、1次試験合格者には、梅田教授、柿山教授、今村准教授による個人面接、場面指導および模擬授業練習会を8月に実施した。なお、福岡市中学校は2次試験で実技試験が課されるため、ダンス、器械運動、陸上競技(走幅跳)の実技練習会を実施した。なお、教員採用試験1次および2次試験合格者に自治体別教員採用試験対策報告書(兵庫県、広島県)をパワーポイントで作成するよう依頼し、データベース化を図った。

プログラム概要

- ・保健体育教職演習(保健体育教員コース学生対象に実施)〈担当:梅田教授、今村准教授〉
保健体育教職演習Ⅰ(3年前期)19名、保健体育教職演習Ⅱ(4年前期)35名の履修であった。
保健体育教職演習Ⅰにて、竹原 誠氏(宗像市立大島学園・義務教育学校長)、大谷俊浩氏(糸島市立引津小学校・校長)を招聘し、現在の保健体育の動向や学校現場の状況についてご講演頂いた。
また、保健体育教職演習Ⅱの受講者を対象に、中田雅子氏(福岡県立特別支援学校・校長)、徳重忠彦氏(元福岡県立春日高等学校・校長)を招聘し、学校現場で求められる人材や学校と地域の連携についてご講演頂いた。
- ・二次試験対策講座〈担当:柿山教授〉
一次試験合格者に二次試験対策として、柿山教授、梅田教授、今村准教授が面接官役となり模擬授業、場面指導の練習会を1211・1222・ゼミ室3教室にて実施した。実際の採用試験を想定し模擬授業、場面指導を評価し、その後、授業構成や板書指導の詳細な指導を行った。また、個人面接の対策も同時に行った。
- ・福岡市・広島県・宮崎県の教員採用試験(二次)実技練習会〈担当:今村准教授〉
走幅跳、ダンス、器械運動(主指導:梅田教授、森本外部講師、指導補助:大学院生)、模擬授業(実技)の練習会と対策を個別に行った。
- ・2020年度教員採用試験対策報告書〈担当:柿山教授、今村准教授〉
福岡県・広島県・市中学校、広島県・市高等学校、教員採用試験対策報告書のデータベース化を行った。
- ・2019年度 公立学校教員採用試験合格者
小学校 長嶺良汰・長崎県(GH16) 福田圭太・佐賀県(GS16) 児之原大志・福岡県(GS16) 松崎颯馬・長崎県(GS16)
中学校 小野稚奈・福岡県(GH16) 秦菜奈水・広島県(GH16) 箆島由芽・三重県(GS16)
赤坂真優・兵庫県(GS16) 高城聖也・福岡県(AU19)
高等学校 草野汐梨・宮崎県(GS16) 檜山謙吾・広島市(GS16)

合格者レポート

健康運動科学科 4年 小野 若菜（福岡県中学校保健体育）

私は大学2年の後半から教員採用試験に向けて準備を行っていました。受験する自治体の情報を集めたあともなから初めていいのかわからず、過去問を解いてもまったく正答できずモチベーションが下がっていました。しかし、大学3年で教職ゼミに入り、ゼミ生みんなで試験対策を始めました。1人では続かなかった筆記対策もゼミ内で試験の情報や対策の進み具合を共有することで自分だけが努力しているのではないことがわかり、周りに負けないように勉強するモチベーションへとつながりました。実技・集団討論・模擬授業・面談の対策は先生方が対策期間を設けてくれる時間以外にも少人数で計画して対策を行いました。私はとくに集団討論・模擬授業・面談が苦手でした。しかし、何度も先生方に付き合ってもらい、繰り返し練習することで心に余裕ができ自信が持てるようになりました。何度も練習したお陰で、本番でもできる限りのことができたと思います。私が最も大切だと思うことは何事も継続することです。誰もが始めは出来ないことばかりなので何度も挑戦してみてください。必ず自身の力になります。皆さんの努力が実を結ぶことを祈っています。



スポーツ科学科 4年 檜山 謙吾（広島市高等学校保健体育）

私は大学2年の春から本格的に教員採用試験の勉強を開始しました。過去問から受験する自治体で問われる内容を把握し、専門教養を大学3年の夏までに終わらせ、大学3年の秋から教職教養に取り掛かりました。私は野球部に所属していたため部活動がある日は勉強時間をあまり確保できませんでしたが、毎日最低1時間は必ず勉強時間を確保しました。引退してからは最低10時間、多い日で13時間勉強しました。大学生は自由な時間がたくさんあります。それにより教員採用試験まで時間があるからまだ勉強しなくても大丈夫と思ってしまいがちです。量より質が大切とされていますが、勉強は量をこなすことによってたくさんの知識が定着すると思います。明日からしようではなく今日からすることにより、夢を実現する可能性が高くなります。時には息抜きもしながら、夢に向かって自分を信じて頑張ってください。応援しています。



健康運動指導者試験対策プログラム

担当責任者 道下 竜馬

Sports & Health
Expert program

<プログラム概要及び成果>

本プログラムは、公益財団法人健康・体力づくり事業財団認定の健康運動指導士および健康運動実践指導者の資格取得を目指す学生を対象に、実技試験および筆記試験対策を下記日程および健康運動指導演習の授業で実施した。特別講師として、健康運動実践指導者の実技試験指導については中山 露氏（スタジオパラディソ、健康運動指導士）をお願いした。

本プログラムの成果として、令和元年度健康運動実践指導者認定試験には3年次生10名が受験し、6名が合格した（全体の合格率：58.1%）。第143回健康運動指導士認定試験には4年次生11名が受験し、10名が合格した（全体の合格率：71.0%）。

<実施日程>

令和元年10月21日、10月28日、11月11日：実技試験対策講座

令和元年10月10日～11月14日：健康運動指導士筆記試験対策講座

合格者レポート

健康運動科学科4年 橋爪 茉衣（令和元年度健康運動指導士 合格）

本校の健康運動指導士試験対策プログラムは、資格取得に不可欠でした。

プログラムでは、單元ごとに専門の先生方の授業、練習問題、解説を受け理解を深めることができました。試験範囲の内容は幅広かったですが、効率よく学ぶことができました。また、資格取得を目指す学生と切磋琢磨し、励まし合うことも合格に繋がったと思います。

我が国の急速な高齢化の中で、自身の健康を保ち、自立した生活を送ることはとても重要です。今後は、健康運動指導士の資格を活かして健康問題に取り組み、健康運動指導士として成長したいと思います。



健康運動科学科3年 前田 梨沙（令和元年度健康運動実践指導者 合格）

本校の健康運動指導者試験対策プログラムのおかげで、健康運動実践指導者の資格を取得することができました。

実技試験対策では、外部講師の方や前年度に資格を取得された先輩方に細かいところまで指導していただき、大きな自信につながりました。また、筆記試験対策では、各分野の先生方に学ぶことによって、より専門的な知識が身につきました。本プログラムを受講する前は、受験に対する不安でいっぱいでした。しかし、試験内容に特化したプログラムによって、効率よく勉強することができ、万全の状態ですべての試験に望むことができました。

今後は、健康運動実践指導者を受験する後輩の手助けをすると共に、健康運動指導士の資格取得に向けて、勉強に励んでいきたいです。そして、学んだ知識を活かし、社会に貢献できる人を目指していきます。



生涯スポーツ教育実践プログラム

担当責任者 築山 泰典

Sports & Health
Expert program

日時：令和元年 10月2日（水） 16：30～18：00

場所：福岡大学 第2 記念会堂 1222 教室

報告者：築山 泰典、宮田 卓哉 参加者：学生 17 名、教員 2 名

平成国際大学スポーツ健康学部准教授であり、Rio 2016 オリンピック・パラリンピック競技大会「Tokyo 2020 JAPAN HOUSE」スポーツ庁ブース管理・運営スタッフ（2016/8）の経験もされた高野千春氏に「私の野外教育・レクリエーション教育実践」とのテーマで講演を頂いた。人とのつながりや自然が持つ力など、高野氏の実践内容を踏まえてお話し頂き、本学のキャンプ実習しか知らない学生たちにとっても新鮮な内容で視野が広がる有意義な時間となった。

講師：高野 千春

平成国際大学スポーツ健康学部 准教授

筑波大学大学院体育学 修士

・TAMA 元気ビクス工房として福岡県内イベント企画・運営

・Rio 2016 オリンピック・パラリンピック競技大会

「Tokyo 2020 JAPAN HOUSE」スポーツ庁ブース管理・運営スタッフ

・日本レクリエーション協会過程認定校研究連絡会平成 30 年度全国研究集会副実行委員長

・レクリエーション関連講師：教員免許状更新講習、子ども大学、シニア大学

・レクリエーションスポーツ授業歴：九州医療センター附属看護助産学校、福岡大学、桐蔭横浜大学、立教大学



受講生レポート

スポーツ科学部 4年 木戸 菜月

高野先生は「人との繋がり」をととても大切にされていました。私にとって人との繋がりとは難しく、距離感というキーワードがととても大切だと思いました。高野先生の行なっている活動の中で感じたことは自然の力・インクルーシブの可能性です。考え方や支援のやり方に注意すれば、誰もが同じように楽しむ機会を作れるし、それを共有することができるということです。それは障がいの有無や国籍の違う人たちにも言えることであると思います。これから生活していく中で、今日聞いた話を頭に入れて生かしていきたいと思います。

スポーツ科学部 4年 末吉 慶如

キャンプなどを含む様々な体験活動には自分を成長させてくれる要素がたくさんあることを学びました。いま自分が置かれている環境に満足するのではなく、自分で切り開いていくという言葉が心に残りました。積極的に自ら色々なことをしていきたいと思います。

スポーツ科学部 3年 藤井 碧

私自身、福岡大学のキャンプ実習を経験して多くのことを学び、感じ、繋がりが増えました。今回のお話を聞いて、誰もが楽しめるスポーツや遊びは、私が思っている以上たくさんあることに気付きました。レクリエーションや遊びでは、サポートする側を楽しませながら“一緒に楽しむ”ことが理想だなと思いました。

日時：2019年10月26日（土）～27日（日）

場所：立教大学 池袋キャンパス

報告者：霜島広樹 参加者：学生6名、教員1名

2019年度におけるゼミ活動の一環として、Sport Policy for Japan 2019（以下 SPJ）への参加、および大会でのプレゼンテーションを実施した。SPJとは、大学生による日本のスポーツ政策についての研究成果と提言を持ち寄り、意見交換と交流を図りつつ、スポーツ科学、スポーツマネジメント、スポーツ政策の研究者、外部有識者等によって内容の評価および表彰をされるといった政策コンペである。2019年度は、立教大学（東京・池袋キャンパス）にて、2019年10月26日（土）～27日（日）といったスケジュールで大会が行われた。（大会ウェブサイト：<http://www.ssf.or.jp/spfj/tabid/582/Default.aspx>）。北海道から九州まで、のべ58のゼミ（チーム）にて大会は行われた。

霜島ゼミにおける大会への当日参加者は、小笠原麻結、河埜亜季、白武七海、高巢圭佑、高橋玲、武本みなみ、および教員の計7名であった。「福岡グルメとアクティビティー豊かなスポーツライフを旅のお土産に一」といったタイトルで、発表・質疑合わせた計25分のプレゼンテーションを行った。出場チーム全体を通し、発表のクオリティが極めて高かったため、表彰台に上ることは残念ながら叶わなかったが、課題に対しゼミ一丸となって取り組めたことや、各チームの創意工夫を凝らした素晴らしいプレゼンテーションを体感できたことは、参加者にとって貴重な財産になったものと考えている。

受講生レポート

スポーツ科学部3年 小笠原麻結

スポーツの力で福岡が抱える課題を解決したい、そういった思いで半年間話し合いを進めた。発表会当日は、限られた時間の中で納得のいくものができると感じていたが、審査員の方々からは予想していたものとは違った角度からの質問やご意見を頂いた。そこは盲点だった…！と、まだまだ研究が不十分であったことを痛感し悔しい気持ちになりつつ、俯瞰して考えてみることの重要性を感じた。さらに、他の大学の提言を聞きながら、その内容の面白さに胸が高鳴り、こんなアプローチの仕方ができるんだ！！と感動した。目標としていた賞を取ることはできなかったけれど、研究の奥深さや可能性を知ることができ、本当に良かったと感じる。今回の経験を活かして、今度こそはあの大きな舞台に立てたら…と思う。

スポーツ科学部3年 高巢圭佑

SPJに参加してみて、全国の同世代の学生がスポーツやマーケティングについてどのようなことを考えているのか、どんな発想を持っているのか知ることができ、またそのクオリティの高さやプレゼン力、コミュニケーション能力を感じて刺激を受けた。自分は普段話すのが苦手であり人前で話す機会を得ることもないので、貴重な経験となった。

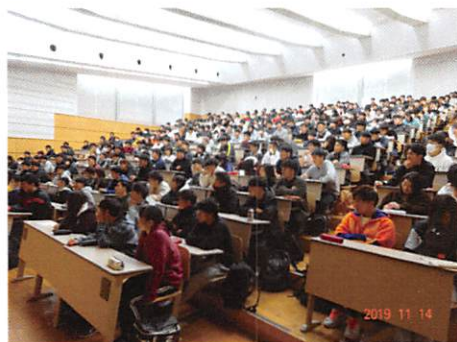


今年度のステップアップセミナーは、昨年に引き続き現役消防士や青年海外協力隊経験者、ミズノ株式会社、現役教員など、本学部生の特性や興味に沿った内容とした。その中でも、公・私立中学・高校においてそれぞれ現役教員として活躍されている学部卒業生に協力を賜り、様々な視点から教育職を考える時間の充実を図った。また、昨年同様、JICA と本学とのボランティア連携事業経験者や現役内定取得者などにも協力を仰ぎ、受講生に身近な存在からのアプローチも試みた。今年で10年目を迎える本講座であるが、今回も幅広い分野の方々の協力を賜り、これまで以上に内容の充実を図ることができた。

本講座における最大の目的は、次年度から就職活動をスタートする2年次生に、今何を考え準備しておくべきかを考えさせることにある。この講座を機に、一人でも多くの学生が充実した就職活動をスタートしてくれることを願っている。

講師一覧

- 第1回 (9月19日) ガイダンス及び一般常識力テスト
- 第2回 (9月26日) コンピテンシーテスト (株式会社リアセック)
- 第3回 (10月3日) 本学の就職・進路支援の実際 (就職進路支援センターの方に説明頂く)
- 第4回 (10月10日) 宮成 麻衣 氏 (平成25年度卒: 鎮西敬愛学園 敬愛高等学校)
- 第5回 (10月17日) 牛島 直輝 氏 (平成27年度卒: 福岡県立小倉南高等学校 定時制)
- 第6回 (10月24日) コンピテンシーフォローアップセミナー
- 第7回 (10月31日) 前原 雅樹 氏 (医療法人 金谷内科クリニック健康運動指導士)
- 第8回 (11月7日) 道下 亨 氏 (平成14年度卒: アビスパ福岡株式会社)
- 第9回 (11月14日) 田中 肖吾 氏 (ミズノ株式会社 人事部)
- 第10回 (11月21日) JICA・ポリビア派遣経験者による報告 (野球部2名, サッカー部2名)
- 第11回 (11月28日) 鐘井佑真 氏 (平成22年度卒: 救助隊)
平野 温 氏 (平成26年度卒: 救急隊) 【 福岡市消防 】
- 第12回 (12月5日) 現役学生による講義 講師: 外田安堂 氏 (ミズノ株式会社内定)
講師: 門司康成 氏 (福岡大学事務職員内定)
- 第13回 (12月12日) 就職進路支援センター「就職活動をどのように取り組むのか？」
- 第14回 (12月19日) 一般常識力テスト及びまとめ



受講生レポート

第4回（10月10日）

講師：宮成 麻衣氏（平成25年度卒：鎮西敬愛学園 敬愛高等学校）

宮成先生のお話を聞いて、私が中学生か高校生のときにこんな先生に出会いたかったと思った。私は教員志望ではないけれど自分の目標へ向かうベクトルの合わせ方について宮成先生のお話から学ぶことが多々あった。宮成先生は、先生としても、人生の先輩としても素敵なお方だと思った。私もこのように誰かに影響を与えられる人になりたい。

第8回（11月7日）

講師：道下 亨氏（平成14年度卒：アビスパ福岡株式会社・青年海外協力隊経験者）

今回、青年海外協力隊の話聞いて、私も少し興味を持っていたことなので、いろいろなことを知れてよかったです。知ることや、違いを認めることの大切さを知り、言葉が通じなくてもジェスチャーや身ぶり、手ぶりなどで伝わるし、言語は後から身につけていくからあまり心配しなくていいのかなと安心しました。また、海外の学生のことを知り、自分たちが何不自由なく生活できていることに感謝しなければならないと思った。

第10回（11月21日）

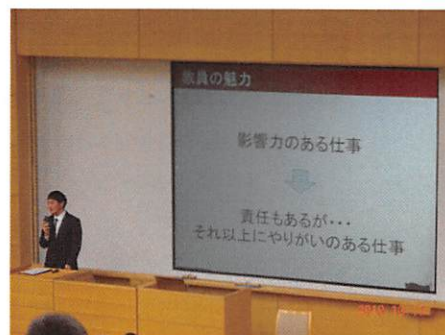
講師：JICA・ボリビア派遣経験者による報告（野球部2名、サッカー部2名）

自分たちが当たり前としている環境から一歩外に踏み出して新しい環境へチャレンジしていった先輩の姿は、力強いと感じました。実際に海外に行って、様々な視点から物事を見ることができるようになったり、スポーツの力を通して異文化の人たちと交流を深めることがすごく重要であると感じました。大学生活における時間はまだまだたくさんありますが、行動力を強く持って過ごしていかないと人生が無駄になるのではないかと感じました。

第11回（11月28日）

講師：鐘井佑真氏（平成22年度卒）・平野 温氏（平成26年度卒）【福岡市消防】

本日は、消防士について話を聞くことができました。以前、職場体験で地元の消防署にお世話になりましたが、普段行われている訓練がどのくらいきついものなのかということは、私の想像をはるかに超えるものでした。人を助けるためにトレーニングをされる姿はとても偉大だと改めて感じました。現場に行くために毎日準備をされていることに加え、何歳くらいまで現場で働けるのかなと感じ、疑問に思いました。消防士は、やはり憧れの存在に思います。



団体の部

〈ソフトテニス部男子〉

2019年 全日本大学ソフトテニス王座決定戦 第2位

安福 和歩 (GH4) 小副川 忠希 (GH4) 松山 雄磨 (GS3) 末吉 慶如 (GH3) 荒田 拓郎 (GS3)
栗山 比呂 (GH3) 真玉 大輔 (GS1) 中村 日紀 (GS1)

〈陸上競技部〉

第103回日本陸上競技選手権リレー大会 男子4×400mR 第2位

三浦 歩 (GS4) 筒江 海斗 (GS3) 白形 優充 (GS2) 松清 和希 (GS4)

〈なぎなた部〉

第58回 全日本学生なぎなた選手権大会 女子団体 第3位

草野 汐梨 (GS4) 坂本 優 (GS4) 世利 優衣 (GS4) 丸野 麗那 (GS4)

〈新体操競技部〉

第71回全日本学生新体操選手権大会 男子団体 第3位

甲斐 裕貴 (GS2) 高藤 直也 (GS2) 野田 智也 (GS2) 野村 拓音 (GS2) 鈴木 諒 (GS1)

〈ソフトボール部男子〉

文部科学大臣杯第54回全日本大学男子ソフトボール選手権大会 第3位

沢村 洋 (GH4) 花田 草太 (GH4) 綾戸 康祐 (GH4) 南 俊亮 (GH4)
坂本 智椰 (GH3) 根津 祐作 (GH2) 山下 太一 (GH2) 日高 慶明 (GS1) 山川 陽樹 (GS1)

〈バレーボール部女子〉

第66回秩父宮妃賜杯全日本バレーボール大学女子選手権大会 第2位

伊藤 寿奈 (GH4) 孫田 菜奈 (GS4) 箴島 由芽 (GS4) 赤坂 真優 (GS4) 秦 茉奈水 (GH4) 坂本 葵 (GH4)
竹尾 保香 (GS3) 田代 千晴 (GS3) 西村 怜菜 (GS2) 右田 明梨 (GS2) 山本 実侑 (GS2) 林田 愛佳 (GS2)
朝長 美砂希 (GS2) 碓 香菜子 (GH2) 佐藤 寛菜 (GH2) 松林 芽衣 (GH1) 山口 真弓 (GS1) 猿渡 未唯 (GS1)

個人の部

〈陸上競技部〉

松清 和希 (GS4)	2019 日本学生陸上競技個人選手権大会	男子 400m	第1位
	天皇賜杯第88回日本学生陸上競技対校選手権大会	男子 400m	第2位
	日本 GP シリーズ 第6回木南道孝記念陸上競技大会	男子 400m	第3位
権瓶 明日夏 (GS4)	2019 日本学生陸上競技個人選手権大会	女子走幅跳	第2位
尾山 和華 (GS3)	日本 GP シリーズ 第32回南部忠平記念陸上競技大会	女子砲丸投	第2位
	2019 日本学生陸上競技個人選手権大会	女子砲丸投	第3位
	天皇賜杯第88回日本学生陸上競技対校選手権大会	女子砲丸投	第3位
神田 菜摘 (GS3)	第67回兵庫リレーカーニバル (日本 GP)	女子走高跳	第2位
	第103回日本陸上競技選手権大会	女子走高跳	第1位
	天皇賜杯第88回日本学生陸上競技対校選手権大会	女子走高跳	第2位
筒江 海斗 (GS3)	2019 日本学生陸上競技個人選手権大会	男子 400mH	第2位

上田 百寧 (GH2)	2019 日本学生陸上競技個人選手権大会	女子やり投	第1位
	天皇賜杯第88回日本学生陸上競技対校選手権大会	女子やり投	第2位
高島 真織子 (GS2)	第41回北九州陸上カーニバル (日本GP)	女子三段跳	第3位
安立 雄斗 (GS1)	天皇賜杯第88回日本学生陸上競技対校選手権大会	男子三段跳	第2位
	第35回U20日本陸上競技選手権大会	男子三段跳	第1位
疋田 直輝 (GH1)	第35回U20日本陸上競技選手権大会	男子やり投	第3位
重永 乃理子 (GD2)	2019 水戸招待陸上	女子100m	第3位
〈体操競技部〉			
米倉 英信 (GS4)	第73回全日本学生体操競技選手権大会	男子跳馬	第1位
〈新体操競技部〉			
栗山 巧 (GS4)	第71回全日本学生新体操選手権大会	男子ロープ	第2位
〈レスリング部〉			
北 英将 (GS2)	2019年JOCジュニアオリンピックカップ	男子フリースタイル86kg級	第3位
今村 太陽 (GS3)	文部科学大臣杯全日本学生レスリング選手権大会	男子グレコローマンスタイル82kg級	第3位
〈なぎなた部〉			
草野 汐梨 (GS4)	第58回 全日本学生なぎなた選手権大会	試合競技 女子個人	第3位
坂本 優 (GH3)	第58回 全日本学生なぎなた選手権大会	演技競技	第3位
丸野 麗那 (GS2)	第58回 全日本学生なぎなた選手権大会	演技競技	第3位
〈水泳部〉			
原口 拓也 (GS4)	第95回日本学生選手権水泳競技大会	男子100m平泳ぎ	第1位

国際試合

〈ハンドボール部〉			
末岡 拓美 (GS3)	第22回世界ジュニア選手権大会	U-21 日本代表	
〈体操競技部〉			
米倉 英信 (GS4)	2019 FIG 種目別チャレンジカップ・ソンバトヘイ大会	男子跳馬	第1位
〈バレーボール部〉			
糸山大賀 (GS1)	第16回男子U19世界選手権大会	U-19 日本代表	

教員採用試験

小学校 長嶺 良汰・長崎県 (GH4) 福田 圭太・佐賀県 (GS4) 児之原 大志・福岡県 (GS4) 松崎 颯馬・長崎県 (GS4)
中学校 小野 稚奈・福岡県 (GH4) 秦 茉奈水・広島県 (GH4) 箴島 由芽・三重県 (GS4) 赤坂 真優・兵庫県 (GS4)
高城 聖也・福岡県 (AU)
高等学校 草野 汐梨・宮崎県 (GS4) 檜山 謙吾・広島市 (GS4)

健康運動指導士及び実践指導者認定試験

健康運動指導士

川添 勇生 (GH4) 谷口 達也 (GH4) 高橋 愛実 (GH4) 水島 健太郎 (GH4) 月形 友理香 (GH4)
綾戸 康祐 (GH4) 橋爪 茉衣 (GH4) 江田 なつみ (GH4) 加藤 弘樹 (GH4) 南里 真衣 (GH4)

健康運動実践指導者

前田 梨沙 (GH3) 亀石 莉乃 (GH3) 福本 萌香 (GH3) 廣瀬 朝耀 (GH3) 河埜 亜季 (GH3) 阿部 俊隆 (GH3)

令和元年度「福岡大学 学部教育充実予算」 体育・スポーツのエキスパート育成プログラム事業報告書

発行 令和2年3月
編集 米沢利広 乾 真寛 下園博信 道下竜馬 築山泰典 霜島広樹
坂本 道人 吉行理瑛 宮田卓哉 高橋大輔 今村 律子
発行者 福岡大学スポーツ科学部
福岡市城南区七隈8丁目19番1号
092-781-6631 (代表)
印刷 有限会社 新幸印刷

<http://www.spo.fukuoka-u.ac.jp>

